

明日の歴史を創造する
 一日一日の積み重ねが永い歳月の経過とともに壮大な歴史となっていく。企業経営に参画するわれわれ一人ひとりは明日の歴史を築いていく担い手であり開拓者なのである。

NPCC ニュース

昭和 57 年 2 月 (第 185 号)

発行者 西日本プラント工業株式会社

総務部 東 宗 利

福岡市中央区渡辺通 2 丁目 1 番 82 号

電話 代表 731-4321

印刷 今 井 印 刷

社 行 動 指 針 憲

永遠・不滅の 社風づくりをめざして

当社の企業理念として、また社員一人ひとりにとっては精神的な柱として、「社憲」並びに「行動指針」が1月1日付で制定された。

これに伴い、その背景や意図するものを詳細に記述したものを「社風」と題し、更には、これを受けて日常の職場で行動する時、参考となるものを「実践の道標」と題した2つの冊子が刊行された。

当社を構成するすべての人びとがこの冊子を座右の銘として、その精神を体現することにより、未来に継承される「不滅の社風」が形成されていくであろう。

なお、これらの作成に尽力された東常務から「制定に当たっての所信」の寄稿を頂き「社憲」の一層の理解、浸透に供した。



刊行された両冊子

社 憲

伝統精神

開拓精神

われわれは
 一党会社を代表し得る企業人として
 情熱と使命感に燃え易きならず
 むしろ困難や障害に對峙するにこそ
 嚆矢として躍動する

経営理念

社会奉仕

わが社は
 エネルギー産業の一翼を担う
 企業としての公益性を重んじ
 高度な技術 サービスを提供する
 ことにより
 産業の発展と社会生活の向上に寄与する

人間尊重

わが社は
 人間の限らない能力と意志を信じ
 人を生かし 人を伸ばし 人を育てる
 ことにより
 社員の成長と幸福実現を希求する

社 是

誠実な施工
 技術の開発
 原価の低減
 安全の確保
 協働の確立

社憲制定にあたっての所信

心の原点に立返って

常務取締役 東 宗 利
 総務部長



新年を迎えて本格的に始動する時期、従業員の皆様におかれましては、毎日の業務に精励されておられることと存じます。

さて、年頭の社長挨拶や社達によって皆様もご存知のとおり、昭和57年1月1日付で「社憲」並びに「行動指針」が制定され、当社はこの精神的基盤を柱として新たなスタートを切ることになりました。そこで、この紙面を拝借しこれらの作成に携わってきた当事者としての所信を述べ、よき人づくりによるよき社風の形成について皆様の理解と賛同を深めて頂くことを希望する次第です。

今日、政治・経済・社会等、私達を取巻く世界は大きく変貌しようとしています。例えば、高度なエレクトロニクスを駆使した工業用ロボットや身近にある精巧な電子機器などで皆様もお気づきと思いますが、技術の目覚ましい革新は、私達の日常生活分野にまで浸透しており、私達の心の中までも支配するかのような勢いです。確かに科学の進歩や物質的豊かさは私達に測り知れない恩恵をもたらしています。肉体的労働を軽減し、代わりに便利さや余暇を与えてくれます。しかしな

がら、それらを有効に使ってより充実した生活や精神の高揚をはかることをせず、無為に費やし安易な方向に傾いた精神的弛緩や荒廃が見受けられるのも事実です。

人間は常に他人との共存の中で社会を形成しています。個人としての存在もこの中であってこそ成立しているのです。絶えず周りの環境や条件の変化に順応して生きていくことは当然ですが、しかし、どのような変化の中にあっても人間として失ってはならない大切なものがあることを忘れてはなりません。

人間としての大切なものとは、人間本来の心とその尊厳を守っていくことであり、人間が所有よりその存在の意義を自覚することなのです。すなわち、人間の永遠のテーマである幸福や成長への限りない希求であり、自ら汗を流して努力することの尊さであり、また、正しさに向かう強い信念や他人への思いやり、礼節といった人の道、道徳であります。

これらは人間として生きていくための原理原則です。まず、これを「心の原点」として持ち、そのうえで高度な知識や理論・技法などを駆使しながら事に当たり、事を成そうと

しなければなりません。この人間本来の原理原則を日常生活の中で体現できるまでに習慣化した「身を修めた人」によって形成された組織や社会は、本道を踏外したり大きな過ちを犯すことはないでしょう。

どのような企業であれ、その存立には公器としての使命・役割が課せられています。その使命・役割を果すのは一人ひとりの人間です。このことから、まず、人間としての個の確立と自律が不可欠であり、人間としてどうあるべきかを自ら問い直し、自らの力で生きる道を切り拓いていくことが大切であると考えています。そこに、初めて企業人としてのあるべき姿が形成されるのです。

そこで、外的環境の変化や、多様化された価値観のなかであって、当社の現状とこれから進むべき将来を考えた時、当社として「変わってはならないもの」「新しく取り入れるべきもの」などを明らかにし、物事や価値観が混沌とした闇の中に一筋の光明を照射することの必要性を痛感したわけです。この照らされた進路が、いつの時代にも私達の思考及び行動の拠り所となる不変の精神的基盤であると考えています。

当社には、創立以来今日まで脈々と息づいている創業の精神があり、また、幾多の先輩が営々と築きあげてきた独自の伝統的風土があります。今日、当社に在籍する私達は、意識するしないにかかわらず、この精神的遺産を受継ぎ、その土台の上に毎日の職場生活を送っているのです。「故人の跡を求めず、故人

の求めたることを求めよ」という聖句があります。当社の創業時の人びとは、その時代に何を求めてきたか——そこには時代を超えて後に続く人びとに少なからず影響を与え、魂を揺り動かす「心の原点」があります。当社の創業時及びその後の歴史を振り返って「故郷」を訪ね、そこから「新しきもの」に對処するための最善の道を見いださなければなりません。

このたび制定された「社憲」は、いつの時代においても当社にとって「心の原点」であり、当社の人びとを通して実践されてこそ、初めて真実の姿を現すものなのです。従って、当社にとって人づくりとは「社憲」を実践する人を一人でも多く育成することなのです。

人は環境によってどのようにでも育ち、その環境をつくるのもまた人です。このように考えますと、よき社風の形成にしても企業の永続性にしてもすべて人に尽きると言えるでしょう。特に人を育てていく立場にある方がたほどこのことを自覚しておかねばなりません。部下は上司や先輩の後姿を見ながら育っていくものです。何よりもまず、当社の幹部・管理者をはじめ先輩社員の方がたが、「社憲」の精神を理解し、それを日常の行動の中でごく自然な形で示すことが、当社独自の社風を形成していくための最高の教材と考えております。

最後に、「心は行動を生み、行動は習慣を作り、習慣は品格を形成し、品格は運命を決する」という言葉を申添えて私の所信いたします。